

# 第3学年 国語科学習指導案

指導者 横田 博江

1 単元名 だんらくごとに内ようをとらえながら読もう 「自然のかくし絵」(東京書籍)

2 単元の目標

- 段落カードを操作して段落の順番を考える学習に関心をもち、説明文を段落相互の関係を考えながら進んで読もうとしている。  
(国語への関心・意欲・態度)
- ◎ 中心となる語や文、各段落の内容をとらえて、自分なりに段落の順番を考えて読むことができる。話し合いを通して、友達との考えの違いに気付くことができる。  
筆者が結論を導き出すために、どんな具体例を、どんなふうに並べて説明しているか段落相互の関係を考えながら読むことができる。  
(読むこと的能力)
- 「段落」の言葉の意味を理解することができる。  
段落相互の関係を示す接続語、指示語、繰り返し語句、文末表現の役割をとらえて段落を並べることができる。  
(言語についての知識・理解・技能)

3 単元について

小学校学習指導要領解説国語編(平成11年5月 文部省)第3学年及び第4学年の「読むこと」の目標には「目的に応じ、内容の中心をとらえたり段落相互の関係を考えたりしながら読むことができるようにする(後略)」とあり、内容イの中でも「目的に応じて、中心となる語や文をとらえて段落相互の関係を考え、文章を正しく読むこと」と述べている。また、指導に当たっては、「段落の要点を抜き出し、意味のまとまりごとに小見出しを付けたりするなど内容を整理」し、「部分をまとめ、つなげ、比べることなどを通して、全体構造をよく理解」できるようにすることの重要性を述べている。さらに、「読解力向上に関する指導資料」(平成17年12月 文部科学省)では、指導の改善として「テキストの意味や構成を理解したり、表現の細部が全体においてどのような役割を果たしているのかなど、筆者の表現意図を解釈したりする力を高める必要がある。」としており、指導例でも「筆者がなぜこういう書き方をしたのかを考える」ことの大切さを挙げている。本教材文は、「問題提起—具体例—結論」の中で結論に至るまでの具体例の順番をとらえやすい構成になっている説明文であり、段落ごとの内容のまとまりを考え、段落相互の関係を考えるのに適した教材である。

本学級の児童(18名)は、好きな本を選んで読書活動を楽しんでいるが、読む本のジャンルをみると、ほとんどが物語であり、科学的読み物などの説明的内容の本を自ら読む児童は非常に少ない。説明文の学習に関する児童の意識調査(平成20年4月7日実施、第3学年1組18人)をみても、「説明文の学習は好きですか。」の問いに対し、「好きではない」、「どちらかといえば好きではない」と答えた児童は18人中12人であり、全体的に説明文の学習を敬遠する傾向にある。その理由として「筆者の言いたいことが分からない」、「話の展開が分からない。」など、全体的な内容や段落のつながりをとらえられないことを挙げている。また、実態調査(平成20年4月17日実施、第3学年1組18人)において、本文から一段落を抜粋し、その段落が本文のどこに入るのか適切な箇所を考える調査を行ってみた結果、段落のつながりや前後の内容を押さえて適切な箇所に入れられた児童は、形式理解に関する調査については1人、内容理解に関する調査については2人であった。このことから、内容の大体をとらえたり、段落相互の関係を考えたりしながら読み取っていくことができていないことが分かった。これは、今までの指導において、細部のみを取り上げながら正解を一つに絞り込む学習を行ってきたことに起因していると考えられる。

そこで、本研究では、児童が段落相互の関係を容易に考えられるように、段落を切り分けた段落カードとそれを操作するためのワークシートを作成、活用する。そのワークシートには、段落の並び換えの手がかりになるように話題提示と結論の段落のみを示す。また、児童が自らの考えを明確にしたり深めたりできるよう、段階を追った学習を工夫するとともに段落相互の関係を考える上での四つの視点を示す。自分の考えを基に段落カードを並べられるように児童に本文を示さずに授業を行っていく。そして、最後に教科書の本文と比較し、なぜ筆者がその順番で段落を並べたかを考えるようにする。段落を並び換えるという操作活動を取り入れることで、段落ごとの内容をとらえながら読みを深め、理解できるようにしていきたい。

このような学習を通して、段落相互の関係を考えながら読むことができる児童を育てたいと考え、本主題を設定した。

4 単元の評価規準

ア 関心・意欲・態度	エ 読むこと	オ 言語事項
① 段落カードを操作して段落の順番を考える学習に関心をもち、説明文を段落相互の関係を考えながら進んで読もうとしている。	① 中心となる語や文、各段落の内容をとらえて、自分なりに段落の順番を考えて読んでいる。 ② 話し合いを通して、友達との考えの違いに気付いている。 ③ 筆者が結論を導き出すために、どんな具体例を、どんなふうに並べて説明しているか段落相互の関係を考えながら読んでいる。	① 「段落」の言葉の意味を理解している。 ② 段落相互の関係を示す接続語、指示語、繰り返し語句、文末表現の役割をとらえて段落を並べている。

5 指導と評価の計画（6時間扱い）

次	時	学習活動・内容	指導上の留意点
一	1	<p>1 単元の学習課題をつかむ。</p> <p>2 「段落」の意味について学ぶ。</p> <p>3 1年生単元の説明文を段落カードを操作しながら読む。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 話のまとまりを示す段落ごとの内容をとらえながら、段落相互の関係を考えて読むことを押さえ、目的をもって学習に取り組むことができるようにする。</li> <li>○ 1年生単元「どうぶつの赤ちゃん」(光村図書)を用いて段落の並び換えをさせながら文章を読み、段落について意識できるようにする。</li> </ul>
二	1	<p>1 「自然のかくし絵」を段落カードを操作しながら読む。(個人)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本文を見せずに、話題提示と結論のみを示すことで、自分の考えを基に段落カードを並べられるようにする。</li> <li>○ 自分の考えの基となった言葉や文をワークシートに書き出させることで、根拠を明確にして段落の順番を考えられるようにする。</li> </ul>
	2 (本時)	<p>1 「自然のかくし絵」を段落カードを操作しながら読む。(グループ)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 個人の考えを基に、意見交流しながらグループで段落の順番を考えさせることで、個の読みを深めるとともに、段落相互の関係をとらえながら内容を読むことができるようにする。</li> <li>○ 段落相互の関係を示す重要な接続語、指示語、文末表現等にも着目させ、その役割を理解しながら段落の並び換えができるように助言する。</li> </ul>
	3	<p>1 「自然のかくし絵」を段落カードを操作しながら読む。(全体)</p> <p>2 教科書の本文と比較する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ グループで話し合った結果を発表し、それぞれの並べ方の違いについて全体で考えることで、着目する言葉や考え方の違いから個の読みを深めることができるようにする。</li> <li>○ 題名である「自然のかくし絵」の意味と保護色との関係をとらえることができるようにする。</li> </ul>
三	1	<p>1 なぜ筆者が本文の順番で段落を並べたか話し合い、文章構成や段落相互の関係をとらえる。</p> <p>2 「自然のかくし絵」を読んだの感想を書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 文章全体の構成である「話題提起－具体例－結論」をとらえることができるようにする。</li> <li>○ 話し合いを通して、発展的に筆者が分かりやすい説明のためにした段落の並べ方や書き方の工夫についてもふれられるようにする。</li> <li>○ 「自然のかくし絵」を読んで、分かったことや感想をノートにまとめ、それぞれの意見として発表させることで、各自の学習のまとめができるようにする。</li> </ul>
	2	<p>1 3年生単元の別の説明文を段落カードを操作しながら読み、段落相互の関係をとらえる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本単元の学習を生かして3年生単元「ありの行列」(光村図書)を読ませ、段落の内容や段落相互の関係についてとらえさせるようにする。</li> <li>○ 接続語、指示語、文末、繰り返し語句に着目させながら読ませ、その役割を理解できるようにする。</li> </ul>

6 本時の学習

(1) 目標

それぞれの段落の内容をとらえ、結論に向かって段落がどのような並び方をしているかを考えることができる。  
(読むこと)

(2) 準備・資料

段落カード (段落を切り分けたもの)、ワークシート、掲示資料 (着目させたい言葉)、  
提示資料 (話題提示と結論、教科書掲載のこん虫の写真を拡大したもの)、学習ふりかえりカード

(3) 展開

学習活動及び内容	指導上の留意点と評価 (◎個への対応)
<p>1 本時の学習課題と学習の進め方を確認する。 (全体)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>筆者がどのような順番で段落を並べていたか、グループで考えよう。</p> </div> <p>2 段落カードを操作しながら、グループで段落の順番を話し合う。 (グループ)</p> <p>(1) 個人で考えて並べた段落カードを貼ったワークシートを見せ合う。</p> <p>(2) 段落カードの並び方の同じところと違うところを見つける。</p> <p>(3) 段落の順番を話し合い、グループで一つの並び方を決定する。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>[並べ換える際に着目させたい言葉]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・繰り返し出てくる言葉 (ほご色, こん虫, 役立つ)</li> <li>・接続語 (それに, ですから, ところが)</li> <li>・指示語 (この, これら)</li> <li>・文末表現 (からです, かぎりませんが)</li> </ul> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>[読み取らせたい内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3種類のこん虫 (コノハチョウ, トノサマバッタ, ゴマダラチョウの幼虫) の保護色の役割について</li> <li>・保護色が役立つ場合と役立つ場合について</li> </ul> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>[話し合いでの意見の述べ方]</p> <p>*グループで段落カードの順番を話し合うときには、なぜそう考えたか、本文の言葉を理由に挙げ意見を述べさせる例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>例・ぼくは、結論の□□と○○の言葉は関係があると思うから並べてみたよ</li> <li>・わたしは、○○の言葉は△△を指してる段落だからつながると思うよ</li> </ul> </div> <p>(4) 段落カードの並び換えを終えたら、他のグループと並べたものを紹介し合い、意見交流を行う。</p> <p>3 学習の振り返りとまとめをする。 (個人)</p> <p>4 次時の学習課題を知る。 (全体)</p>	<p>○ 前時の学習を振り返り、個人で考えた段落の順番を基に、本時はグループで段落の順番を考えていくことを確認する。</p> <p>○ 本時も段落カードを用いて比較検討しながら段落の並び換えをし、段落相互の関係を考えながら読み取っていけるようにする。</p> <p>○ 個人とグループ、全体で使用する段落カードを3色に色分けすることで、単元末に並べ方を比較する際、自分の考えの変容がとらえやすいようにする。</p> <p>○ 黒板に、話題提示と結論部分を拡大した提示資料を貼ることにより、全体構成の中での具体例 (本論) 部分の段落の並び換えをすることを意識させるようにする。</p> <p>○ はじめに、グループ内で個人で考えて並べた段落カードを貼ったワークシートを見せ合うことで、並び方の同じところ、違うところを見つけ出させ、違うところから個人の考えとその理由を軸に話し合いを進めていくように助言する。</p> <p>○ 本時も児童に本文を示さずに学習を行っていくことで、まず段落内の内容をとらえ、併せて段落内に接続語、指示語、繰り返し出てくる言葉や文末表現も手がかりにしながら、段落カードを並べられるようにする。</p> <p>○ 児童には、段落カードを並べる際には、理由となる文中の言葉を具体的に挙げて説明することを約束し、叙述を根拠に言葉にこだわりながら並び換えができるようにする。</p> <p>○ 補助資料として、「着目させたい言葉」や「保護色をよって身を隠しているこん虫の写真 (教科書掲載)」を教室前面に掲示することで、大事な言葉をとらえさせたり、理解を助けたりする上での一策とする。</p> <p>○ 話し合いにより、グループで段落の順番を一つに集約し決定させることで、積極的に意見を述べ合いながら考えを練り上げていけるようにする。</p> <p>◎ 話し合いが円滑に行われているグループには、発展として、筆者の説明の述べ方・書き方で気付いたことを話し合わせ、今後の学習の伏線とする。</p> <p>◎ 話し合いがままならないグループには、保護色に関する3つの具体例や着目させたい語句を確認させることで、段落の関係性を押さえられるようにする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>それぞれの段落の内容をとらえ、結論に向かって段落がどのような並び方をしているか考えることができる。 (段落カード・ワークシート・観察)</p> </div> <p>◎ 早くに段落カードの並び換えを終えたグループは、他のグループと並べたものを互いに紹介し合い、並び方の違いについて意見交流ができるようにする。</p> <p>○ 授業を通して分かったことや感想を自由記述で書かせることにより、個の読み取りの深化やつまずきが見取れるようにするとともに、個の学習のまとめとする。</p> <p>○ 次時では、本時のグループでの並び換えを基に、筆者がどのような順番で段落を並べていたかを全体で話し合うことを確認する。</p>

本研究にかかわる授業実践

- ① 単元名 だんらくごとに内ようをとらえながら読もう  
「自然のかくし絵」(東京書籍)

② 単元の評価規準

ア 関心・意欲・態度	エ 読むこと	オ 言語事項
① 段落カードを操作して段落の順番を考える学習に関心を持ち、説明文を段落相互の関係を考えながら進んで読もうとしている。	① 中心となる語や文、各段落の内容をとらえて、自分なりに段落の順番を考えて読んでいる。 ② 話し合いを通して、友達との考えの違いに気付いている。 ③ 筆者が結論を導き出すために、どんな具体例を、どんなふうに並べて説明しているか段落相互の関係を考えながら読んでいる。	① 「段落」の言葉の意味を理解している。 ② 段落相互の関係を示す接続語、指示語、繰り返し語句、文末表現の役割をとらえて段落を並べている。

③ 学習指導計画(6時間扱い)

次	時	学習活動及び内容	指導上の留意点	評価規準
一	1	・本単元の課題をつかむ。 ・段落の意味を学ぶ。 ・段落カードの操作の仕方を学ぶ。	○児童が内容や段落を容易にとらえられるよう、第1学年の題材である「どうぶつの子ちゃん」(光村図書)を活用する。	ア①・オ①
二	1	<b>本研究にかかわる時間については下記</b>		エ①・オ②
	2		エ②・オ②	
	3		エ②・オ②	
三	1	・筆者の段落の並べ方や内容について考える。	○意図的に段落が並んでいることに気付くことができるようにする。	エ③
	2	・学習したことを生かして、自分の力で別の題材について読む。	○児童が学習したことを生かしたり、学習の成果を実感したりできるように、第3学年の題材「ありの行列」(光村図書)を活用する。	エ③・オ②

④ 学習展開

	学習活動及び内容	押さえるべき事項及び留意点
個人	学習活動及び内容 段落カード(黄色)の操作活動 1 段落内の中心となる語や文を見つける。 2 段落ごとの内容をとらえる。 3 段落の順番を考えて並び換える。	・自分の考えを基に並べられるように、本文は示さない。 ・話題提示と結論の段落のみを示したワークシートを配付する。 ・話題提示と結論の各段落の内容を十分にとらえるように助言する。 ・既習内容を生かして自分の力だけで並び換えを行う。 ・接続語、指示語、繰り返し語句、文末表現に着目できるようにする。
	↓	
グループ	学習活動及び内容 段落カード(青色)の操作活動 1 自分の考えと友達の考えを比較する。 2 自分と友達の考えの違いに気付く。 3 自分の考えを見直しながら、四つの視点に沿って、段落の順番を話し合う。	・個人で考えた並べ方を基に話し合い、一つの並び方を決定する。 ・話題提示と結論の提示資料を黒板にはり、結論を導き出すために具体例(本論)の段落が並んでいることを意識しながら段落の順番を考えるように助言する。 ・並べた根拠を具体的に挙げて説明するようにする。 ・友達とどこが、なぜ違うのか、友達は何に着目して順番を考えたのかを聞き、そこから自分の考えを見直していけるようにする。 ・児童のつまずきに応じて、四つの視点を示す。
	↓	
全体	学習活動及び内容 段落カード(赤色)の操作活動 1 新たな考えの違いに気付く。 2 四つの視点に沿って段落を並び換え、段落のつながりや段落相互の関係を考える。 3 教科書の本文と比較する。	・グループの結果を基に全体で話し合い、より多くの違った考えにふれることで、考えの練り上げを図る。 ・児童のつまずきに応じて、四つの視点を示す。 ・教科書の本文と比較することで、意図的に段落が構成されていることに気付けるようにする。